

論文内容要旨

論文題名

The influence of denture usage/management, surface roughness, and host factors on denture calculus formation

(義歯の使用管理方法, 表面粗さおよび宿主要因が歯石様沈着物形成に及ぼす影響)

掲載雑誌名 Gerodontology (投稿中)

高齢者歯科学 松村 圭祐

内容要旨

【目的】

日本の高齢化率は 26.7%となり, 身体機能や ADL が低下した者も増加傾向にある. 不適切な義歯使用・管理方法によるデンチャープラーク, 歯石様沈着物の付着は口腔内環境の悪化を引き起こす. 義歯への歯石様沈着物の形成には様々な要因があり, 歯石沈着物の形成により口腔内環境の悪化を引き起こすことが知られている. しかし, 義歯の清掃状態と患者自身による義歯使用管理方法, 義歯表面粗さ, 宿主要因について比較した報告は充分でない. 本研究は, 患者の義歯使用・管理方法, 義歯表面粗さ, 宿主要因(口腔内乾燥度・唾液性状)について実態調査を行い, 各要因の影響の強さを明らかにすることを目的とした.

【方法】

被験者は義歯装着後 3 ヶ月以上経過している患者 53 名で, 少なくとも下顎左右犬歯間の欠損を義歯で補綴している者とした. 義歯を清掃・染色後, 歯石様沈着物付着群 (n=18) と非付着群 (n=35) の 2 群に分けた.

被験者に義歯使用・管理方法のアンケート調査を行い, 口腔水分計を用いて口腔内乾燥度を測定した. また, 安静時唾液を検体とし, 唾液性状の評価を行った. 対象義歯は 2 種類の洗浄剤(歯石用・除菌用)でそれぞれ 5 分ずつ超音波洗浄器を併用して洗浄し, 義歯表面粗さを測定した.

歯石様沈着物付着の有無と義歯使用・管理方法の関係についてカイ 2 乗検定, 義歯表面粗さ, 宿主要因(口腔内乾燥度・唾液性状)について Mann-Whitney U 検定にて解析した. また, 歯石様沈着物形成におけるすべての調査項目の関連性を明らかにするために, 多変量解析数量化 II 類を

用いて解析した。本研究は昭和大学歯科病院医の倫理委員会の承認(DH2015-15)を得て、被験者の同意のもと実施した。

【結果】

歯石様沈着物付着群は、非付着群より就寝時の義歯装着頻度が有意に高く、義歯保管時の義歯洗浄剤の使用と回数は有意に少なかった。義歯表面粗さは、歯石様沈着物付着群が非付着群より有意に粗造であった。口腔内乾燥度および唾液性状に有意な差は認められなかった。

多変量解析の結果、宿主要因（口腔内乾燥度・唾液性状）よりも義歯使用管理方法と義歯表面粗さに有意相関を認めた。

【結論】

歯石様沈着物の形成には義歯の表面粗さと義歯使用・管理方法が大きな影響を与えることが明らかになった。一方で、宿主要因（口腔内乾燥度・唾液性状）の影響は少ないことが示唆された。